

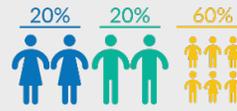
## 数字で見るアフガニスタン

➔ 290万人

2020年12月31日時点、アフガニスタンの紛争により発生した国内避難民の推定人数

➔ 66万7,832人

2021年1月1日以降、紛争により新たに発生した国内避難民の推定人数<sup>1</sup>



➔ 7万2,375人

2021年10月17日時点、国内にいる難民・庇護希望者の推定人数

➔ 220万人

2020年12月31日時点、近隣国へ避難したアフガン難民・庇護希望者の推定人数

➔ 4万8,180人

2021年1月1日以降、国際的な保護を必要とし、新たに近隣国へ逃れたアフガン難民の推定人数<sup>2</sup>

## 概要

- 現在、UNHCRはアフガニスタン全土で緊急支援の規模を拡大している。ここ2週間は、緊急シェルター、毛布、ソーラーパネルの配布、もっとも脆弱な人々に対する現金給付などを行っている。報告期間中は6万人以上、今年に入ってからこれまで50万人近くの避難民に支援を届けている（以下参照）。

### 2021年：UNHCRの緊急支援活動の概要 (10月15日現在)



支援対象者

6万4,100人 | 44万6,900人



支援対象地域

25 | 34



主要な援助物資の受給者  
3万3,200人 | 22万600人



保護を目的とした現金給付支援の受給者

1万3,600人 | 2万4,400人



シェルター・家賃のための現金給付支援の受給者

4,300人 | 4,300人



ソーラーパネルの配布により支援された人の数  
3,400人 | 6,100人



生理用衛生キットを受け取った女性と女兒

2,100人 | 4万5,900人



配布された家族用テントの数

200張 | 1万2,900張

凡例：報告期間中（10月1日～15日）に届けた支援 | 2021年に届けた支援

- UNHCRは、この2週間で660世帯の国内避難民の出身地（特に北部地域）への帰還を支援。これらの帰還民に対して、1世帯あたり交通費200米ドルと帰還後の社会復帰を目的に400米ドルの現金給付を実施している。さらに、UNHCRは10月末までに少なくとも280世帯の中央高地地域への帰還を支援する予定。戦闘が終結して以来、UNHCRは約15万8,000人の避難民が出身地域へ帰還しているとの報告を受けており、このうち約7万7,000人の国内避難民は、医療、教育、生計向上やインフラ整備などを通してコミュニティの安定化および支援を行うUNHCRの開発プロジェクトが実施されている21の優先帰還・再統合地域（PARRs）に帰還している。
- UNHCRはアフガニスタンへ迅速に人道支援を届けるために、近隣国ウズベキスタンのテルメズに物流拠点を設置し、追加の物資を準備している。報告期間中、主要なシェルター物資を積んだUNHCRのチャーター便が3機テルメズに着陸した。これらの緊急援助物資は、今後アフガニスタンのマザリ・シャリフにトラックで輸送される予定。
- UNHCRとUPSの協働により、チャーター便はドバイにあるUNHCRの備蓄倉庫から100トンの緊急援助物資（主にシェルター用品、調理器具セット、プラスチックの防水シート）を運び入れた。UNHCRはこれらの物資で12万5,000人以上の国内避難民を支援する用意がある。もっともニーズが高い人々に命を守る支援を届けるためにも、厳しい冬を迎える前に緊急援助物資が到着することが極めて重要である。



UNHCR、ウズベキスタン経由でアフガニスタンへ援助物資を届ける代替ルートを開設。10月15日、UNHCRの緊急援助物資を積んだ飛行機がウズベキスタンのテルメズに着陸した。命綱となる援助物資の空輸作業は、アフガン人一人ひとりに緊急支援を届けるために重要な大規模オペレーションである。© UNHCR/Elyor Nemat

- UNHCRアフガニスタン事務所が管理する、保護に関するお問い合わせ専用のホットライン（フリーダイヤルの相談窓口）とメールボックスへの連絡は9月に入ってから2万1,000件を超え、1日の平均は600件ほどに上る。問い合わせには保護を担当するUNHCRスタッフが対応している。最も脆弱な状態にあるアフガン人のケースを確認し、直接回答もしくは適切なサービスや支援への照会を行っている。またUNHCRは、この数週間でさらに高まっている人道支援のニーズに応じて緊急事態対応スタッフを派遣し、支援体制の強化に取り組んでいる。
- これらの問い合わせは、障がい者や高齢者、女性世帯主世帯、未亡人、LGBTI当事者などからも寄せられている。マイノリティの方からの問い合わせ件数が増えているほか、職種によって仕事への復帰が許されない女性や、教育が中断された女子学生からの相談などもみられる。

## 地域情報

- UNHCRは各国に対し、安全を求め避難する人々のために国境を開放しておくよう引き続き呼びかけるとともに、関係当局に対して、「アフガニスタンへの帰還に関するUNHCRの見解」に従い、アフガン人の強制帰還を禁止するよう再度注意を呼びかけた。
- UNHCRは今年に入ってから、新たに近隣国に逃れ、国際的な保護を必要とする可能性のあるアフガン人を約4万8,000人記録しているが、実際数はさらに多いと推定される。UNHCRの調査に応じた人の大多数は、安全上の懸念を理由にアフガニスタンを離れたと報告している。新規入国者への聞き取り調査からはシェルター、食料、身分証明書や登録書、生計向上など、生活再建に向けた基礎的な支援を必要としていることが明らかとなった。この中でも、渡航書類を所持していないイラン在住のアフガン人の多くは、拘留やアフガニスタンへの強制帰還の可能性に対する懸念を訴えている。
- パキスタンとアフガニスタンの国境を陸路で結ぶ公式な通過地点のひとつであるチャマン・スピン・ボルダックでは、10日連続の閉鎖状態が続いている（10月15日時点）。この状況を受けて、地方自治体や関係者の会合が開かれた。UNHCRは同国境地点を閉鎖する理由について公式な報告を受けておらず、引き続き関係当局に情報の開示を求めている。閉鎖状態が続く一方で、10月9日にパキスタン政府より送られた人道支援物資を積んだトラック数台の入国が許可された。
- パキスタンとアフガニスタンを陸路で結ぶトルハム国境地点でも、通行規制が続いている。先週、国境付近で入国許可の簡素化・解除を求める地元住民や商人の抗議活動が報告されている。
- イランでは、アフガニスタンとの国境を跨ぐ検問所をほとんど閉鎖している（アフガニスタンのパスポートやイランへの有効なビザを所持する場合を除く）。その一方で、現地メディアはイラン当局の情報をもとに、1日あたり4,000～5,000人のアフガン難民が新たにイランに入国していると推定しており、ドガロンなどの国境地点からは1日あたり約1,200人の入国が報じられている。現在、UNHCRはイランとの国境地点へアクセスできないため、報告されている人数を確認できていないものの、UNHCRの調査に応じた人のうち、81%がこのような国境地点を経由してイランに入国したと回答している。これは以前の報告から75%の増加となる。

